



* 今月の花
キクイモの花

前へ! 未解決 朝鮮女子勤労 挺身隊問題

二〇二三年十月二七日
外務大臣 上川 陽子 様

強制動員問題 の解決に向けて の要請

強制動員問題解決と過去清算のための共同行動
(<https://181030.jindofree.com/>)

日韓関係の改善に向けての大臣のご努力に敬意を表します。

三月六日、韓国政府が「徴用工」問題の「解決策」を發

外務省要請行動

- 1、日韓間で歴史認識を共有
- 2、日本政府の「反省と謝罪」
- 3、被告企業の「謝罪と賠償」

表してから七か月余が経過しました。

日本政府は、この「解決策」を「日韓関係を健全な関係」に戻すものと評価し、「この機会に」と断りを入れつつ「日本政府は、一九九八年十月に発表された『日韓共同宣言』を含め、歴史認識に関する歴代内閣の立場を全体として引き継いでいる」旨を表明しました。これ以降、日韓関係は改善をみました。

しかし、肝心の強制動員問題は「解決」に向かっているとは言い難い状況にあります。大法院判決を受けた原告十五名のうち十一名は「解決

名古屋「支援する会」も参加して

々が大変苦しい、そして悲しい思いをされたことに心が痛み思いです」と述べられました。同日二十一日には、尹大統領とともに広島島の韓国人原爆犠牲者慰霊碑を訪れ献花をされました。これも岸田首相の「誠意」なのかも知れませんが、これだけでは足りません。

私たちは、強制動員問題を解決していくには、「解決策」のその先へもう一步踏み込む必要があると考えます。そのような観点から下記のことを日本政府に要請いたします。ご検討のほどお願いいたします。

記

- 1 戦時における朝鮮人強制動員の事実を明らかにし、日韓間で戦時動員の実態、実相について資料、記録、証言等突き合わせ、戦時動員についての共通の歴史認識を形成すること。
- 2 強制動員の被害者にあてて岸田首相が「反省と謝罪」を表明すること。
- 3 被告企業の三菱重工、日本製鉄に対し自主的に被害者に謝罪、賠償を行うよう促すこと。

策」を受入れ、第三者弁済によつて財団から賠償金相当額を受け取りました。しかし、今も拒否している原告が四名います。韓国政府は、これらの原告に対し賠償金相当額の供託を行いました。しかし、それはすべて不受理となりま

し。財団（韓国政府）の異議申し立てもすべて棄却されています。「解決策」そのものに法的疑義が突きつけられているとも言えます。

このような状況を見ると、今こそ日本の側から「誠意ある呼応」をなすべきです。

岸田首相は五月七日の日韓首脳会談で、「私自身、当時、厳しい環境のもとで多数の方



梁錦徳さんの叙勲問題

【声明】日本が不便だ
ろうと心配して「あげ
ない」ということ!

二〇二三年十月十二日
韓日歴史の正義平和行動
日帝強制動員市民の会

梁錦徳さんの叙勲問題
を、強制徴用の解決策とつ
なげて判断するということ
は、「対日屈辱外交」の典
型を見せてくれるもの

外交部を相手にした十日の
国政監査で、朴振外交部長官
は梁錦徳さんの叙勲授与手続
を再開の可否を尋ねる民主
金ホンゴル国会議員の質疑に
対する返答で、「現在は強制
徴用と関連して政府解決策が
今履行されている、そんな側
面も総合的に考慮することが
必要である」と語った。

外交部は去年十二月、「事
前協議が必要である」という
理由で、国家人権委員会が大
韓民国人権賞の最終候補に推
薦した梁錦徳さんに対する叙
勲授与案件の審議過程に介入
して、最終的に霧散させたこ
とがある。

朴振長官のこの日発言は、
当時外交部が叙勲授与の反対
理由として単純な手続的問
題を提起したのに、今度はま
た、日本との関係問題を考慮
して叙勲再開手続きを持ちに
くいと、立場を再び変えたの
である。

これについて金ホンゴル議
員が、「長官の返事を見ると
行政的手続的の問題ではな
く、外交上問題と認めたの
ではないか」と尋ねると、
朴長官は「あの時は、日本に
対して強制動員問題解決のた
めの解決策を提示する前だっ
た」と言った。

金議員が再び「国内で活動
する内国人に、人権委員会
が賞を与えるというのに、な
ぜ外交的問題で、なぜ日本の
機嫌を伺わなければならない
か」と追及すると、朴長官は
「もちろん当然、その賞自体
を見て判断しなければならな
いが、しかしある状況や時点

に対しては、総合的な考慮が
必要でないかというのが、私
どもの立場である。」と語つ
た。

本日に驚愕を禁じえない言
葉である。一言で、梁錦徳さ
んに対する叙勲保留事態の背
景が、特別に斟酌するに値す
る正当な事由があったのでは
なく、日本との関係が不便で
あるかと思つて尹錫悦政権が
前もって知つて、頭を下げた
というのである。言い換えれ
ば、授与できない事由があつ
たのではなく、露骨に政権に
不便な人物について叙勲を
「あげない」ということであ
る。

梁錦徳さんは十四歳で勤勞
挺身隊に動員されて胸の痛む
歳月を過した後、一九九二年
初の日本訴訟を始まりに三二
年も法廷闘争をしている、強
制動員被害者の生き証人であ
る。このようなお婆さんに暖
かい慰労はできないとはい
え、低姿勢屈辱外交のための
お供えに犠牲の生け贄にする
とは話になるのか?

外交部に尋ねる。梁錦徳さ
んの人権賞及び叙勲授与問題
が、なぜ外交的判断の対象に
ならなければならないのか、
大韓民国が自国民に勲章あげ

るのさえ勝手できず、日本人
の機嫌を伺つて、上げるのか
上げないか決めなければなら
ないのか?

尹錫悦政府が梁錦徳さんの
叙勲問題を、強制徴用解決策
(第3者弁済)の履行状況とつ
なげて判断するということ
は、一言で尹錫悦政権の対日
屈辱外交の典型を見せてくれ
るものに他ならない。

特に外交部が突然、他の被
害者との公平性問題を取り上
げるのは破廉恥な仕業であ
り、非常に出過ぎた真似だ。
「大韓民国人権賞」が慰勞
行事の景品配りのように、無
駄に配るだけの賞なのか?
国家人権委員会が厳格な審査
を経て、最終候補者を選定す
る大韓民国人権賞について、
外交部が賞を誰彼には上げる
な、これに加えて公平性の問
題まで何の権限でいちいち介
入するのか?

本日に慨嘆を禁じえない。
これが果たして、まともな国
家なのか?
尹錫悦政府に尋ねる。尹錫
悦政府が守らなければならな
い利益は一体、大韓民国の利
益か、日本の利益か?

【訳】李洋秀氏

民族の祝日・祭祀

朝鮮民主主義人民共和国
ピョンヤンからの
通信



先輩、友人、家族を偲ぶ契機 民族の誇りと自負与える契機

〔編集者まえがき〕本欄は、我が国とは未国交状態にある朝鮮民主主義人民共和国の立場や日朝関係をきむ諸見解を理解できるように、同国の対外文化連絡協会（ピョンヤン）を通じて日朝協会愛知県連（名古屋）に直接送られる情報・資料をそのまま紹介する欄です。

【朝鮮民主主義人民共和国
ピョンヤン 2023年10月17日】

原文/日本語

国家無形遺産 檀君祭礼

檀君祭礼とは開天節（十月三日）を迎えながら朝鮮民族の始祖、檀君のお墓である檀君陵や檀君祭堂などで祭祀を行う儀式のことです。

檀君は五〇〇〇年前に朝鮮の地に国を建てて国家発生の緒を開き、古代の文明社会に導いた朝鮮民族の始祖として誇らしい民族の歴史の最初のページを飾った歴史的人物です。

この時から朝鮮民族は檀君を始祖として同じ血筋を引き継ぎ、同じ国土で同じ言葉を使いながら暮らしてきた単一民族になり、五〇〇〇年の悠久な歴史と輝かしい文化、伝統を有する民族として世界に名乗ることができました。

檀君が民族の歴史に残した大きな功績のゆえに朝鮮人民

た。

朝鮮対外文化連絡協会

この日になりますと人々は服装を正して祖先のお墓参りをし、祭祀を執り行いました。

秋夕には月見の風習もありました。

人々は家の周りの山に登って浮かび上がる月を眺めたり庭先で車座になって月を見上げながら楽しんだりしました。

この月見の風習には多感で情緒豊かな朝鮮民族の内面世界が反映されています。

秋夕を楽しく過ごすために

秋夕（中秋）

古くから朝鮮人民は秋夕（中秋）を大きな民俗祝日として祝ってきました。

秋の夕方と言う名称通り秋夕は五穀がたわわに実る豊穡の秋、満月の十五日夜を祝日として楽しんだことから生まれた風俗であります。

遠い昔から朝鮮人民は秋夕に祖先のお墓参りをするのを当然の道理として、伝統的な風習としてみなしてきました。

2023ピースあいち子ども企画展

終わりを告げないロシアとウクライナの戦争を始めとして、世界のどこかで内戦や反乱が起きています。そこで「戦争の中の子どもたち」と「戦争と動物たち」のパネル展示を通して、戦争と平和について学んでほしいと願っています。



戦争の中の子どもたち 戦争と動物たち

2023年10月3日(火)〜11月25日(土)



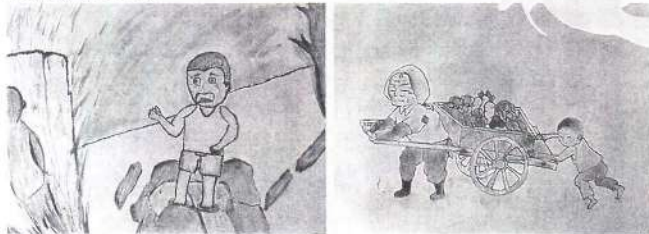
「戦争の中の子どもたち」特別展示より

「戦争で親をなくした子どもたち―戦争孤児を知っていますか」

78年前に終わったアジア太平洋戦争では、数多くの子どもたちが両親をなくし、戦争孤児になりました。世界では、今も、爆弾が落とされています。世界で戦争がある限り、孤児になる子がいるのです。今回の特別展示が、「戦争孤児」について「知る」機会になることを願っています。

- 展示内容
- I 戦争孤児を生みだしたアジア太平洋戦争
 - II 「浮浪児」「駅の子」と呼ばれた戦争孤児
 - III 名古屋の養護施設と戦争孤児
 - IV 「満州」で孤児になった橋本克己さん

(藤井さん親子のイラストより)



空襲で親をなくした戦争孤児 結 藤井勇樹さん(父) 戦後食糧がなかった時期、お手洗いをする施設の戦争孤児 藤井勇樹さん(長女)



1942年橋本克己一家が満州に渡る前、親戚の人たちと 1945年つぎ瓦礫の子どもたち 沖崎隆弘さん 引き揚げてきた孤児たち(「救済」13場行の帰郷した年暮 戦利一畫を左の孤児の橋本さん 濱崎清哉)

「博物館相当施設」ピースあいち 戦争・平和の資料館

○ 開館時間 11:00-16:00 ○ 休館日 日曜、月曜
○ 入館料 大人 300円 小中高生 100円
(有料企画の場合は観覧料が必要です)

- ピースあいちの常設展示
- 第1展示 愛知県下の空襲
 - 第2展示 戦争の全体像・15年戦争
 - 第3展示 戦時下の暮らし
 - 第4展示 現代の戦争と平和



〒465-0091 名古屋市長久区よき台 2-820
TEL&FAX 052-602-4222
https://peace-aichi.com/

新型コロナウイルス感染症大流行の状況によっては、臨時休館または展示・イベント等の内容の変更があります。電話やHP、ツイッターでご確認ください。

朝鮮を占領した日本帝国主義は朝鮮民族抹殺策動に狂奔しながら檀君の存在自体を打ち消してしまおうのに主眼を置きました。日本帝国主義は占

は数千年の長い間、代を継いで檀君を民族の始祖として崇めながら檀君祭を行いました。檀君祭は地域によって天神祭、太白山祭などの名称で伝わってきました。

しかし愛国的な宗教家や人民は檀君を神として崇拜する大宗教(当時の檀君教)を創始して檀君陵を補修し檀君祭

領初期から檀君関係の一切の資料を手当たり次第に焼き払い、檀君についての教育、研究なども容赦なく抑え込んだだけではなく、檀君陵を盗掘し破壊する蛮行も辞しませんでした。

毎年、開天節を迎えながら行われる檀君祭は朝鮮労働

礼を続けてきました。金日成主席と金正日総書記は神話的な存在としてのみ伝わってきた檀君が現在の民族の始祖であることを考証するようにし、檀君陵を次代に残る記念碑的建造物として立て直してくださいました。

檀君祭は二〇一六年五月、国家無形遺産に登録されました。

党の正しい民族遺産保護政策の生活力を実証し、朝鮮人民に民族的誇りと自負を与える有意義な契機になっています。

論評

関東大震災のジエノサイド

―植民地合法論との比較から―

文 光喜 愛知朝鮮学園理事長

今年九月一日も、日泰寺で同胞冤死慰霊祭が催された。名古屋では中島飛行機半田製作所等の徴用工たち八七名の犠牲者とともに、関東大震災一〇〇周年を追悼した。記憶しない歴史は必ず繰り返される。

関東大震災の「人災」に対する調査が一度たりとも行われず、被害者達への謝罪や補償もされないのは、背景に民族差別や在日外国人を治安の対象として扱う問題があると

思われる。五月二三日、参院内閣委員会において立憲民主党の杉尾秀哉議員が政府の対応や責任を「重く受け止めて歴史の闇に葬ることなく、記録の精査をして謝罪すべきは謝罪する」ことを真正面から一〇〇年ぶりに追及したが、政府当局者は何ら素っ気ない返事で

把握できる記録は見当たらず、「調査は考えていない」と突き放し、無視し続けている。

八月三〇日NHKでも放映され、今、全国映画館で封切りされている「福田村事件」の千葉県野田市長が一〇〇年前の事件に対し、「謹んで哀悼の誠を捧げ」初めて弔意を表したが、東京都小池知事は追悼行事に六年間弔電を送っていない。

関東大震災の先行研究は多い。日本が未だにジエノサイド条約に日本が加盟(二〇二三年現在一五二カ国加盟)しない原因とその歴史的背景から日本の植民地支配の事後責任に関する視点まで踏み込みその問題点を明確にしているのは多くない。本稿では、朝鮮人虐殺が何故戒厳令下で行われ、虐殺責任の隠蔽が今日

まで続き、植民地の事後責任回避が「現在的問題」にまで繋がっている面を考察してみる。

朝鮮人虐殺事件の解明

一九二三年の関東大震災は過去一〇〇年の地震史の中で、けた外れに被害が大きく、未だに謎めいて解明されていないという。

大震災での朝鮮人虐殺事件は一九六〇年代に、在日朝鮮人の研究者である姜徳相・琴秉洞編纂『現代史資料六 関東大震災と朝鮮人』により基礎が構築された。

日朝協会が一九六三年に「朝鮮人犠牲者調査慰霊特別委員会」を組織し、追悼法要を行い、七三年に絹田幸恵(教員)、山田昭次(立教大学名誉教授)、松尾章一(法政大学名誉教授)、犬丸義一(歴史科学協議会代表)、今井清一(横浜市立大学教授)らとともに受け継がれ、各地で資料収集や追悼碑の建立が続いた。彼らは「歴史の事実 関東大震災と朝鮮人虐殺」研究成果を出版し、九三年の七〇周年に「この歴史永遠に忘れず、『関東大震災政府陸海軍関係資料』等が大きな反響を呼んだという。

昨今、ネットやメディアで

は「朝鮮人虐殺はなかった」というデマが広がり、トリック数字や過剰な謀略宣伝が出回っている。当時、上海の韓国臨時政府が発行する機関誌「独立新聞」に掲載された、「金承学調査」の死亡累計六六六一人は、権力側が一切調査を拒絶し、妨害する困難極まる中で調査した数字である。日本帝国主義が全ての資料を隠蔽し、敗戦時に自らの手で重要書類を焼却したのである。

しかし、二〇〇三年、内閣府中央防災会議「調査会報告書」では「武器を持った多数者が非武装の少数者に暴行を加えたあげくに殺害」し、「その対象は朝鮮人が最も多かったが、中国人、内地人も被害にあった」として「震災による死者数(一〇万六千人)の約半数(約八一三名)」を挙げた。「背景は、当時、日本が朝鮮を支配し、その植民地支配に対する抵抗運動に直面して恐怖感を抱いていたことがあり、無理解と民族的な差別意識」があり、「反省することが必要」だとしているのに国会では明快な答弁をせず隠しているのは何故なのか。

戒厳令下で行われた朝鮮人虐殺

大虐殺の出発点である、流言蜚語の出所については、支配権力説と民衆同時説、自然発生説等があるが、権力側がこの事件を意図的・組織的に抹殺したことが明確になつてゐる。まさに近代日本史上、沖繩を除いて日本全土が戦場になつたのは関東大震災以外にない。戒厳軍の進駐下に自警団暴力が「不逞鮮人」の討伐を敢行し、一般庶民のひとたちが朝鮮蔑視と敵視観のデマに狂つた忠実な天皇教徒で殺人者になつたのである。

それを江島修は記している。「若い朝鮮人の死骸が転がっていた。素裸にされて大の字に仰向けになつて腹から腸がはみ出て血まみれになつた手足には蠅と蟻がたかつていた。局部まで切断されていた。その側にはこういう制札が立っていた。『いやしくも日本人たるもの必ずこの憎むべき朝鮮人に一撃を加えてください』とした。」

安当局の中樞部である内務省警保局長後藤文夫の電文(九月一日付)を挙げている。それは「朝鮮人が各地に放火し、不逞の目的を達成せんとし、爆弾を所持し、石油を注ぎて放火する者あり。戒厳令を施行したるが故に、各地に於て充分周密なる視察を加え、鮮人の行動に対して厳密なる取締りを加えられた」とした。また、内務省の意を受けて、自警団の結成を命じた移牒では、郡町村長が「在郷軍人分会・消防隊・青年団等は一致協力して、その警戒に任じ、一朝有事の場合には、速やかに適当な対策を講ずる様至急相当御手配相成度」ことが命じられた。

返しと植民地領有、反抗する者への弾圧という施策は、震災時の朝鮮人虐殺の原因を作ると言われている。植民地戦争に参加した在郷軍人たちは軍人と警察とともに弾圧の使命感に酔いしれ自警団を結成し、官憲はそれを推奨したという。地震の翌日から三日にかけて軍隊、警察、民兵の三位一体の戒厳体制が成立した。

異常な状況下における集団ヒステリー状況は、軍隊と警察による社会主義者の殺害である。無政府主義者大杉栄と内妻伊藤野枝、甥橘宗一は九月一六日憲兵大尉甘粕正彦らによって惨殺され、河合義虎(南葛労働組合理事)ら七名、プロレタリア作家平沢計七(純労働者組合長)は三日に殺害され、浅沼稻次郎らも警察や憲兵隊に連行され暴行を受けた。

一〇月下旬には、朝鮮人を虐殺した自警団の処理を処罰する公判が行われたが、「天晴れての人殺し」を「情状酌量」で許したのである。警察を襲撃して警察に拘留されていた朝鮮人を虐殺した被告の実刑率は四七・一%、日本

人を虐殺した被告に比べて朝鮮人を虐殺した被告の方が執行猶予になつた者が多く、刑もずっと軽かつた。官憲は朝鮮人を虐殺した被告を形式的に裁判して法治国家の体面を繕い、外国からの批判をかわしただけである。全く罪のない多くの人を無残に虐殺した自警団員が裁判で有罪の実刑を受けたのは三二名、その最高刑(懲役五年以上)の懲役がわずか二人で、翌年一月に皇太子結婚の恩赦令により釈放されたという。

解放前、上海臨時政府は抗議文を日本政府に送つたが、これを無視し「不逞の輩」とののしり、その後一〇〇年間口を開くことはなかった。一九五〇年代、衆議で国会議員の質問に対し、時の池田首相は「寡聞にして存ぜず」と答弁したという。韓国政府は一九五二年からの、日韓会談においても日本政府に対して真相究明や謝罪の要求、名誉回復を求める外交的提議は一度もしなかつた。国家犯罪であり、民族犯罪を経済的援助欲しさに目をつむる韓国外交が今尚、続いていることに対し、義憤を感じる。

朝鮮人虐殺の国家責任の隠蔽
関東大震災は国家総力戦体制準備の転換期であり、日本ファシズムの地ならしへの絶好の機会として、編纂した事件史は徹底した隠蔽史である。

半年後に、「在日関東地方
羅災同胞慰問班」が組織され、調査を行われたが、警察の朝鮮人死体の隠蔽と引き渡しは徹底して拒否され、上司からは「数が分からないように」焼くように指示され、日本人労働者の死体と共に埋葬され、発掘をさせなかったとい

さらに、関東大震災に関する歴史書は朝鮮人虐殺の責任を朝鮮人自身と日本人民衆に押し付け、国家責任を隠蔽し続けた。つまり、民衆は流言を流した悪玉であり、警察は民衆が流した流言を抑える善玉とした。総督府は虐殺問題で日本の朝鮮統治が大困難を来すことになるのを直感し、この事件が人心に与える動揺を極力抑えるために、日本から帰国してきた朝鮮人に箝口令をひき、形だけの朝鮮人犠牲者調査書を出した。

それにもとづき「震災遺族弔慰金を一人につき二〇〇円を贈り遺族に慰問した(朝鮮総督府『関東地方震災時における朝鮮人問題』)」としているが、事実関係は確認できていない。社会のあらゆる階層が共犯関係になることが隠蔽構造の形成に繋がったと劉永昇は指摘する。隠蔽すればするほど嘘の上塗り、益々膨れ上がっていったのではないか。

ゆえに犠牲となった朝鮮人、中国人に対する追悼を拒否するだけではなく、一寸の国家責任を取ろうとしないところ、現在の日本国家の姿勢が表れて、在日韓国・朝鮮人に対する政策に繋がっている。日本は朝鮮を植民地にしただけではなく、植民地にされた朝鮮は分断された国家が残り、同じ民族同士で血を流す悲惨な戦争で一〇〇万人の離散家族を生み、今なお三八度線が睨み合っている。これは植民地支配が産み出した、絶対に許されない悪行である。それにも関わらず日本は朝鮮の南北分断の苦難と悲しみに向き合わず、南北統一と和解に常に因縁をつけ妨害し、朝鮮人虐殺の真相を隠し謝罪していないのである。

おわりに
日本政府は二〇一六年「ヘイトスピーチ解消法」を作ったが、人種差別を規制する法令は何一つない。

ゆえに、朝鮮への制裁を背景にした朝鮮学校への迫害、在日朝鮮人を標的とするヘイトスピーチや直接的暴力は後を断たない。

日本も批准した人種差別撤廃条約は植民地主義を克服することは世界の流れでもある。世界は一極型ではなく、多極型になりつつあり、BRICSの台頭やグローバルサウスの時代に突入している。人種差別や外国人排斥の問題は植民地主義と奴隷制に繋がっており、世界に悲劇的惨状をもたらすことが認められている。

在日朝鮮人をめぐる問題は植民地主義をどう克服するかという、日本人自身の問題である。歴史に時効はない。不幸な時代の克服には官民一体の真相究明・自浄努力が欠かせない課題であろう。

日本は真摯に自国の歴史に向き合い、植民地と朝鮮人虐殺の歴史は、日本人が覚えておくべき歴史ではなく、

【参考資料】

関東大震災八〇周年記念行事実行委員会編『世界史としての関東大震災』日本経済評論社二〇二〇年
『関東大震災八五周年朝鮮人犠牲者追悼シンポジウム一事件の真相究明と被害者の名誉回復を求めて』三一書房ドキュメント『関東大震災』草風館一九八三年
高橋慎一『歴史の真実 関東大震災と朝鮮人虐殺』現代史出版会一九七五年
姜徳相・琴秉洞編『現代史資料六 関東大震災と朝鮮人』みすず書房一九六三年
琴秉洞編『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料』緑陰書房一九九六年
山田昭次『朝鮮人虐殺関連新聞報道史料』緑陰書房二〇〇四年
金原左門『昭和の歴史① 昭和への胎動』小学館一九九四年
加藤直樹『トリック「朝鮮人虐殺」をなかつたことにしたい人たち』から、二〇一九年
(二〇一三年九月八日)

近代貨幣

朝鮮貨幣史小考

紙幣・金貨・銀貨・白銅貨・銅貨

山崎眞臣

- ① 二十圓金貨
光武6年
(1902)



- ② 壹圓券
明治35年(1902)
株式会社第一銀行



- ③ 朝鮮銀行百圓券
大正3年(1914)
朝鮮總督府
(のち日本政府)



ここで、「朝鮮通宝」を発行した李朝二代目の世宗大王の時代に戻して話を進めていきたいと思えます。なぜ、世宗大王が、まず第一に挙げなければならぬことは、国字すなわちハングルの発案者であり、創作者であることです。この偉業は多くの人の賛称の的であり、永くきおくされることでしょう。

大王は天才的な人でした。金属活字改良と大量製造により、多種多様の書籍の発刊、農法の改善、鋌山開発、山林の植樹、暦の改善、武器の改良と用法、前王朝『高麗史』の編集。日本幕府との交友、人間愛に満ちた法の制定。

この大王によって、李氏朝鮮が五〇〇年の永きにわたって存続できた基礎を盤石なものにしました。「朝鮮通宝」もその一翼をなしたのではないかと思っています。

近代貨幣は銀と銅貨として発行され、一八八八（明

治二一）年のことで、京城典円局が製造しますが、発行数は不明ですが、きわめて少数でした。「二円銀貨」一枚、現在五百万円ぐらいの値がついています。

明治三五年迄は、京城・仁川・龍山で造幣され、明治三九（一九〇六）年から大阪造幣局に移され、金貨も加わりますが、二十円金貨【①】は一枚で現在一千万円に近い値がついていると思います。

十円、五円は金貨で、半円、二十銭、十銭は銀貨で、五銭は白銅貨、一銭と半銭は銅貨で造られています。

紙幣は明治三五（一九〇二）年、日本政府と韓国総税司によって、「株式会社第一銀行券」【②】として発行され、明治四三（一九一〇）年、日韓併合により、「朝鮮銀行」が設立され、朝鮮総督府と日本の内閣印刷局によって、多くの種類が発行【③】され、昭和二十（一九四五）年の終戦にいたるまで続きました。



『お隣の国で「お手伝い」
朝鮮の中学校で軽音楽部
立ち上げた日本人』

鑑賞のおすすめ



【その 89】

書籍 (2012年)
『平壤6月9日高等学校・
軽音楽部 北朝鮮ロックプロ
ジェクト』
著者：ファンキー末吉

伊藤 一郎

(koreamovieculture@yahoo.co.jp)

朝鮮文化を知る会

書籍販売サイトで、本を検索していたら、面白そうな本を見つけた。本の帯には「美少女たちとの魂のロック」と書かれている。本の裏側の表紙には、著者の他に九人の平壤の中学生のカラー写真が印刷されている。また本書には、著者と朝鮮の中学生との交流の際に撮影された写真が多数掲載されている。

書いてとてもお得である。筆者は学生時代に中国語を学ぶ際に、同氏のいくつかの著作のお世話になっている。さらに著者の過去の著書をWEBで検索してみると『天安門にロックが響く』『大陸ロック漂流記、中国で大成功した男』など、あまりにも魅力的な題名がずらりと出てくる。

本書は二〇一二年に日本の出版社・集英社インターナショナルから出版された。著者はファンキー末吉氏。ファンキー末吉氏は爆風スランプというバンドを日本で結成し、一九九八年の活動休止まで十年以上ドラマーおよび作曲担当として活動してきた。

著作によると、著者は北京だけでなく中国の都市でもライブ活動を行い、中国に根付いた活動をしていたようである。

本書のなかでも、著者がプロとしてドラムを打つ場面が出てくる。

ファンキー末吉氏は二〇〇七年、朝鮮で合法的にロックバンドを作るプロジェクトを開始したという。合法的に西洋音楽のバンドを作る試みは当時、非常に斬新に感じた。そのプロジェクトは『NEW S ZERO 特別版』北朝鮮でロックする！』(日本テレビ)でドキュメンタリーとして放送された。本書では、朝鮮の中学校で軽音楽部の学生にロックを教え、ロックバンドを作る過程が描かれている。

著者は二〇〇一年には生活の場を北京に移し、中国を拠点として精力的に音楽活動をしてきた。中国に関する書籍も多数で、特に『中国語で歌おう!、カラオケで学ぶ中国語』は音楽CDも同梱されて

二〇〇六年の末、朝鮮は核実験を実施。中国の国務委員が平壤を訪問して金正日総書記(当時)と会談、また同時に北京で米国、中国、朝鮮の首席代表が、六者協議に向けた非公式協議を開催するなど、非常に複雑な情勢のなかで同プロジェクトが行われた。

著者は本プロジェクトのために複数回訪朝したが、金正日総書記が亡くなった後の朝鮮の人々の反応も描かれている。

激動する朝鮮半島情勢のなか、音楽を通じた朝鮮の中学生や教員との交流の様子はとも興味深い。本書に随所で触れられている朝鮮音楽の分析(メジャーコードが多く使用されている等)も非常に興味深い。プロの音楽家としての著者の朝鮮を見る視点は、斬新である。

最後に、本プロジェクトのドキュメンタリーをテレビで見た著者の当時小学生の子供と著者との会話をしてみた。

「パパは何しに北朝鮮に行くの？」

「日本人が誰も知らないお隣の国で、お前たちと同じくらしい女の子が、同じように笑ったり泣いたりしながら暮らしている。パパはね、大人たちがぐちゃぐちゃにしてしまったこの世の中を、お前たちにしてほしい、そんなお手伝いのできたらいいなと思って、あそこに行ってるんだよ。」

軽い気持ちで手に取った本書であったが、本を開くたびに、思いのほか内容が重く、著者の熱い気持ちに何度か目頭が熱くなった。本書での著者の言葉の数々は、飾りのない剥き出しの心を感じた。

筆者は、本書の著者が北京と平壤を往復していた二〇〇六年の前後数年間に、何回か北京に行く機会があった。本書を読みながら、当時の北京に住む朝鮮人、朝鮮人社会の雰囲気と何度か重ね合わせた。またその時代、朝鮮人と朝鮮の歌をカラオケで、街で、

あるいは電車の中で共に歌った情景、普段はクールで感情を表に出さない人々が歌を歌いながら人目を憚らずに感情丸出しで踊り出す情景が何度も目に浮かんだ。当時、朝鮮民族は本当に音楽が好きで、朝鮮において、音楽がただの娯楽ではなく、政治的な性格を持つことを実感する場面もあった。

本書で著者は、会いたくても会えない朝鮮の人々を思い出して涙を流す。本書は約二〇年前に出版された古い本である。購入する際も、新本ではなく中古本を購入することになる。しかし役人や政治家では実現できないであろう、心を通わせた親善大使としての著者の思いは、時代を超えて、本書を手にとった多くの人々の心を動かすであろう。

こあんない

人業劇団ひらき座 40周年記念公演

ひらき座版 西遊記 後巻

終わりなき旅路

北文化小劇場 052-910-3366

11月11日 14:00開演 2,000円 / 1,000円
18:00開演

2023年 12日(日) 11:00開演

電子チケットの購入が必要です

TEL-FAX 0561-69-2663

http://www.hirakiza.com

●11月12日(日) 11:00の部 手話通訳あります。

★連載『歴史の心』を中断して★

朝・口首脳会談 ～多極化への深化～

金 宗 鎮

はじめに

世界平和の潮流は、今一つの大きなうねりを見せた。

米・NATOと対決するロシアのウクライナ事態に加えて、米・日・韓の軍事同盟による朝鮮有事への脅威の展開の最中、朝・ロの両首脳は、世界の平和と東アジアの平和を維持するための、戦略的対策を論じた。

時代の流れは、米国による一極支配のタガが大いにゆるんで、「法と秩序」が音をたてて崩れさらんとする様相を見せている。

ポルトガル、オランダ、スペイン、イギリス（英・仏・独・伊）から、第二次大戦後のアメリカ一極支配の、五〇〇年の世界支配・秩序が途上国・社会主義の自主独立平和への希求に、米国は力のかぎりを以て、防戦におおわらわである。

言うところの、「無法国家」「強権国家」への非難と干渉、経済的軍事的圧力の強化であ

り、新たな戦争、核戦争の脅迫である。

世界を自主と覇者の激突と見る筆者の論点は、ここ日本では全くの少数派であるが、その視点から、今回の朝・口首脳会談を論じてみる。

※ ※ ※

本論に入る前に、多極の時代を求め、国々の苦難の歴史を振り返ってみることは、その希求の根★を理解することになる。

近ごろアフリカ大陸から、フランスの撤退と民衆の反仏運動の報道がある。第二次大戦後によく独立を果たした国々が五十余国ある。

かつて、アメリカ大陸に売られたドレイが一億余人、途中に死んだ者が一億人と言われる。彼等は「人間として生きる」ことが無かった。

アフリカの最近の反仏クーデターを民衆デモに仏軍は追われるが、デモ隊の中には、ロシアと朝鮮の国旗（手作り）をかかげる人々があったと言う。

アフリカ諸国は、国連の対朝鮮経済制裁に同調する国はほとんど無いとも言った。

日本国民の常識とか、世界認識とかとは全く異なる「光景」が世界にはある。
『人間らしく生きたい』は朝鮮半島の歴史認識でもある。
十九世紀末からの日本帝国の朝

鮮侵略の横暴は、戦後（一九四五）にも敵対関係として、表出され続けている。

今年は一〇〇周年と云うことあって、関東大震災の朝鮮人虐殺の論議等が多い。

ナチスのホロコースト、日帝の南京虐殺、関東大震災の朝鮮人虐殺は、劣等なる「ユダヤ、チャンコロ、センジン」だから殺しに殺したのである。

アジア侵略とその敗戦を直視しないままだから、反省のしようがない。

今以後、二〇〇年の朝鮮人民の自主独立の志向は、覇者たちにとっては『国際秩序の敵』であり続ける。

1 金正恩・プー チン首脳会談

（一）ウクライナ事態、韓・米核演習の最中に、朝・ロの首脳会談が持たれた。

加えて台湾有事が米・日から喧伝されて、まさに核戦争前夜である。

二〇一七年の金正恩・トランプ首脳会談は、一つの転機であった。なぜか、それはアメリカの対北核威嚇を無力化させたからである。「北の非

核化」をアメとムチで迫るアメリカに対し、朝鮮は外交の正常化、敵対の解消に求め、「アメによる非核化取引」、「ムチによる非核化」を拒否し、トランプアメリカに外交的手詰まりをもたらした。

二〇一七年にはまた、朝・中首脳会談を重ねて、習近平国家主席に、「朝鮮の地政学的勝利」と言わしめた。

時あたかも、アメリカの対中国戦略の失敗に気づいたトランプ政府によって、中・米経済戦争が展開された。プーチン大統領はこれらを受けて二〇二〇年にピョニャンを訪れた。プーチン大統領は、ピョニャンの対米戦争観を大いに感じ入り、「朝鮮の無い地球は存在しない」、そして「米国の存在を地球の上に許さない」との朝鮮の決意に、共感したようだ。ロシアの、米・NATOによるロシアの孤立化に立ち向かう戦略観の共有であろう。

朝鮮・ロシアの領土、国民、主権への侵害、弱体化は許さないとの戦略関係の始まりであった。

(二) なぜ二〇二三年なのか。

ウクライナ事態、敵基地先制攻撃論、広島G7の核正当化等々への対応であろう。

ベトナム侵略、イラク・アフガン侵略の失敗から、NATOや日・韓の同盟国の動員へとスタンスを変えた米国の新たなシフトに対応する反米シフトの表出である。「NATOと日本を活用したい」との米国の戦略に対する、大きなメッセージであろう。事の核心は、日本国の台湾有事、朝鮮有事への軍事的スタンスの大変化にある。

「北の基地」を先制攻撃するとは、宣戦布告に等しく、①誤れる歴史認識、②国として加害を認めない過ち、それに加えて、③米国主導の無法国家論によってさえられて

いる。日本国内に、①朝鮮との外交を望む声は絶えて久しく、②平和関係の構築の交流も途絶えて久しい。新たな日本の「戦前」がそこに始まる。日本の朝鮮への先制攻撃論なるものは、非理、非道の覇

者の論理であり、アメリカの「北朝鮮制圧」の下請けにすぎない。

だが、日本と韓国の「北朝鮮への軍事行動」が異常なまでに高まりつつある。二〇二三年にその軍事介入を阻止すべき対応を朝鮮半島地域の平和は要求した。ウクライナのNATO化、日本の米軍一体化が朝・ロの戦略的結盟を促した。

※ ※ ※

マスコミは『ならず者国家』『孤立した両国』の会談と論じるが、ありもしない「台湾有事」と「朝鮮有事」、「北のミサイル、日本飛来」侵略を喧伝するだけである。

(三) 朝・首脳会談は世界の地政学に根本的な変化をもたらした。

▲首脳会談は朝鮮半島地域と世界の平和と安全に大きく寄与する。

NATO・米の核兵器がロシアの国境に迫ることに反発する「ウクライナ事態」と「北朝鮮」への先制攻撃のシフトを構築する米・日・韓の事

態は、世界大戦の危機を現実のものとしてしている。

ことの起こりは、「朝鮮の崩壊」、「ロシアの弱体化」に発するという視点からすれば、米国の帝国主義的策動にある。言うならば、一極支配のアメリカの時代の「維持」にある。朝・ロの結末はそれを制御する。

▲世界のミリタリー・バランスを変化させた。

反米決断したロシアが、反帝反米の朝鮮との血盟を求めたことによって、アメリカ優位のミリタリー・バランスに変化をもたらした。一時、アメリカの主導による「六者協議」で朝鮮の非核化に同調したロシアが、朝・ロ関係をかつてないレベルに引き上げることを望んだ。

核時代のミリタリー・バランスは、①米・ソの核対決 ②米対中・ロの核対決 ③米対中・ロ・朝の核対決へと移り変わった。

世界の核宇宙軍に、朝鮮が登場した。朝鮮の核宇宙軍を事実上容認する中国と朝鮮の核宇宙軍との血盟を約する口

シアによって、米の軍事行動を制する。小国朝鮮の軍事大国化によるミリタリー・パランスの変化が起きた。

朝鮮の核宇宙軍の特質は、唯一米国の核脅威の制御にある。朝鮮の核は、覇権国家の核とは異質の次元にある。その来歴を見てみよう。

人類は広島・長崎以来、核の無い世界を望んだ。朝鮮も一九五〇年以来、核の脅しに、朝鮮地域の非核化を望み、対米平和努力に尽くした。だが、その努力は空しくも、米の核の脅しに、国家存亡の危機に追いつめられた。

①中・ソ大国の核の傘に入らないままに、②核開発の至難の行程に座込んだりしていたならば、朝鮮の存続は無かったであろう。③今なお、『北政権の終末』、『アジアのNATO』化と侵略の脅威を受け続けている。

かくして朝鮮はやむなく核保有国となり、そして今、世界の反米反帝を先導する。
▲朝・ロ関係の新たな出発となった

朝鮮外務省は、朝・ロ関係

は高い段階に昇華されたと言明した。それによって、国際力学構図パランスが保障され、戦略的安全環境も改善されたという。朝・ロ関係は、ロケット、科学、教育、文化、福利厚生の多方面にわたって交流を深めることを約した。朝鮮の科学技術、教育の現代化志向を反映している。

※ ※ ※
朝・ロ首脳会談への、米国の反発は強い。「UN決議に反する」、「世界平和と安全に対する脅威」と論難する。

2 多極化の高まり

アメリカによって、その存在を否定されている朝鮮と、アメリカの大きな乳房に抱かれ育った日本はねまさに両極端にある。そして両者独自には深く永い敵対関係が重層に積み上げられている。

小国の自主独立と大国の覇道の抗争・歴史認識は果てしなく続くのであろうか。

世界は、自主独立の流れにある。直近の報道に目をこらせば、それ

は発見できる。

▲キューバで六十余の国々がハバナ宣言を出す。▲「中国経済は依然として世界の経済成長の原動力である」(駐名古屋中国領事)

▲BRICSの拡大 ▲メドイソコリアの銅像アフリカに建つ。モザンビーク、アンゴラ、ジンバブエ、ナミビア、ボツワナ、セネガル (ラオス、カンボジアにも)

▲アフリカの反仏感情は、フランス軍撤退のデモに手作りの朝鮮国旗がふられる。▲「日経十月一日インタビュ」に東チモール大統領語る。

記者/ロシアのウクライナ侵攻について。大統領/ウクライナの戦争については、米国は部分的に責任がある。記者/米国と中国の対立構図が強まっている。

大統領/米国の中国への非常に敵対的な態度は同意しない。「中国は脅威」だと言い続けている。私はそうは思わない。中国をムチ打つために台湾や人権を利用することをやめることだ。

以上のニュース点描の中に、あるものは自主の流れの中に、多極

化とその中心に、社会主義の国々であることを語る。社会主義国の主導に、多極化の「組織化」に、「(ここ)に朝鮮あり」。

※ ※ ※

五〇〇年の

の 欧米の 世の 五〇〇年の 先進の 文明の 光りの 西山の 落日の 陽の

の アフリカの 南米の 大地の 中近東の アジアの人 血みどろの 涙まみれの 五〇〇年の

の 一極の 世の 閉じて 多極の 世の 開きて いろは にほへと ちりぬるを

もっと知りたい！もっと交流を！

いま面白い市民運動の情報誌

地元 グループ紙誌

坪坪見

●革新・愛知の会

(第三四〇号) 二〇二二・三・十
 発行 平和・民主・革新の日本をめざす愛知の会 / 名古屋熱田区

○「インタビュー」川澄延夫さん / インボイス廃止から消費税廃止運動へ / 零細中小業者を苦しめるインボイス

○「近ごろ思うこと」気候危機に取り組む「グリーン・ユードイール」 / 尾形慶子

○「わが街の革新懇」東区革新懇から高橋伸幸

●結(ゆい)

(第三四号) 二〇二二・三・七
 発行 ユニオンと連帯する市民の会 / 名古屋熱田区

○第一〇〇回 ユニオン学校報

ほか

●なごや市職

(第二三九二号) 二〇二三年一
 〇月一・十一 発行 名古屋
 市職員労働組合 / 名古屋市中
 区三の丸

○徳田組織部長インタビュー
 「組合がもつ力を伝えたい」

○第一回会計年度任用職員問題対策会議 / 会計年度任用職員の処遇改善を

○もつと働きやすい職場に / 賃金調査部長会議

ほか

●平和新聞・愛知版

(二〇二二・三・十・五 編集 二
 愛知県平和委員会 / 名古屋市
 東区)

○あいち総がかり行動19集

ほか

●草の根

(二〇二二・三・十・六 発行 二
 原水爆禁止愛知県協議会 / 名
 古屋市東区)

○第二回締約国会議に向けて
 『日本も参加』の声を草の根
 から広げよう!

○日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名 / 県内一〇二、六四七筆 (二〇二二・三・九・十現在)

○高校生・青年も開催 / 世界大会報告集会

ほか

●窓の会

(第八七号) 二〇二二・三・十・十
 二 発行 二これから出版 / 豊橋
 市)

ほか

○嵐山は鎖国期に西洋事情研究の必要を力説 / 別所興一

●軍装操典

(第一五三号 発行所 二全日
 本軍装研究会 / 岐阜市長良)

○三ヶ根山 七烈士廟 / 阿部源市

○「近代遺跡考古学 64」
 終戦時における大磯地区の部隊配置・後編 / 市原 誠

○サムライ 日野射撃場発砲事件を語る / 辻田文雄

ほか

●あま東部

(No. 一七四) 二〇二二・三・十・十
 五 発行 二あま東部平和委員
 会 / 海部郡大治町)

ほか

○大治町議会の良心が花開く / 核禁条約「意見書」全議員で採択

○「平和のつばやき」戦争は

会 / 岸田自公政権退陣!

○不安と混乱のマイナ保険証
 は中止を / 実行委員会が署名
 運動を開始

○原爆犠牲者を偲ぶつどい /
 再び被爆者をつくらないため
 に

国 / 気候危機・民主主義の危
 機とユニオン運動 / 猿田正機
 さん / 小野政美

○韓国ワイパー (デンソーの
 韓国内子会社) 闘争が勝利判
 決 / 浅野文秀

○映画「福田村事件」を観て
 / 櫻井善行

○大脇雅子弁護士の体験的
 非暴力抵抗論の提起するもの /
 新著『武力によらない平和を
 生きる』 / 別所興一

○北朝鮮の食糧危機・国際的
 孤立は本当か? / チョン・ウ
 クシク

決して起こしてはいけなく
飯降かずの孫(中一)
○【平和のつばやき】平和行
進と日韓の連帯く竹田昭彦(横
浜市在住)



★全国からの通信

日朝協会

【宮城版】二〇二三・九・一六

○【資料パンフ】「羅州宮三面
抗日農民運動記念碑」碑文原
文

○【参考】朝鮮戦争停戦七〇
年・国際シンポジウム 七・
一四 東京お茶の水会館
○【パンフ】消せない足跡「宮
城県における朝鮮人強制連行
・労働の歴史」(増補版)

【埼玉版】二〇二三・十・一

ほか

ほか

○【関東大震災朝鮮人虐殺百
年】犠牲者追悼会を開催／九
月四日 常泉寺
○藤岡事件一〇〇年の集い
松本あや
○運動の多様性と社会的認知
度が広まることを期待く菅野
隆

【群馬版】二〇二三・十・一

ほか

○関東大震災朝鮮人虐殺・藤
岡事件一〇〇年追悼の集い
九月九日 成道寺く松本和江
○【歴史の現場から】南平台
・市ヶ谷・御殿場く内藤真治
○【韓国映画最新情報】アッ
クジョン スタードラムく渡辺
マツ代

【福岡版】二〇二三・十・一

ほか

○【あれこれコリア】西大門
刑務所歴史館く田中美由紀
○【韓国のマスコミ】韓国の
教科書も沈黙する「朝鮮人虐
殺」
○【韓国の伝承】虫女(上)

ほか

【東京・中野版】二〇二三・
十・一

○TV朝日・報道ステ／朝鮮
人虐殺事件報道／兄が埼玉県
片柳村事件を証言く五十嵐正
子

○産業遺産情報センター「朝
鮮人差別はなかった」と歪曲
した展示物を追加／ハンギョ
レ新聞報道
○映画「雪道」に寄せてく上
林真佐恵

○「今さら聞けない・・・」尹
政権の国家保安法による市民
団体捜査

【大阪版】二〇二三・十・十

ほか

○南北の危機的状況深刻、対
話こそが重要
○【映画案内】『極限境界線』
救出までの一八日間

【広島版】二〇二三・九

ほか

○原水禁世界大会／韓国から
代表と4年ぶりの歓迎交流会
○九・二四 広島朝鮮小中高
級学校の運動会を応援

○朝鮮学校公開授業

ほか

兵庫・むくげ通信

三二〇号

○【研究ノート】植民地下朝
鮮における中国人労働者く堀
内稔

○脇浜海岸0番地く小城智子
○旧ソ連の高麗人音楽団体と
人気歌手①く大和泰彦

ほか

京都・高麗美術館報

【発行】公益財団法人高麗美術
館 二〇二三・九

○【開館三五周年記念】秋冬
展『吉祥文様と草虫』につい
てく鄭喜斗

○【日本のなかの渡来文化】
播磨大避(おおさけ)神社の秦
河勝く井上満郎

○【仲尾宏先生追悼】『江戸時
代の朝鮮通信使から学ぶ』②

ほか

【表紙】三浦雅子